

原・浮島をめぐる

原・浮島の地は北に日本一高い富士山を仰ぎ、南に日本一深い湾・駿河湾を臨む風光明媚な自然の楽園。季節の動植物にあふれ、また歴史浪漫を感じられる名刹や名所旧跡が点在します。このマップ片手に出かけてみませんか。きっとステキな出会いが待っています。

原・浮島の特産品

温暖で気候のよい原・浮島には美味しい名産がいっぱい。ぜひご賞味ください。

左から沼津愛鷹茶、野菜、あしたか牛、沼津市・原の地酒



富士のお山と並び称された、江戸時代の名僧・白隠禅師ゆかりの名刹。禅の教えを今に伝える。

原・浮島
ぐるりMAP
き-H 19

しょういんじ 松蔭寺と ばくいん 白隠さん

白隠宗の大本山。開創は鎌倉時代弘安年間、1280年頃。江戸時代に名僧・白隠慧鶴が住職を務めた寺として知られています。白隠禅師が住職となったのは享保2年(1717)、その後松蔭寺には修行者はもちろん、在家の多くの人々が訪れたことが知られています。白隠禅師が岡山藩主池田侯より贈られた備前焼の播り鉢を台風で折れた松の枝にかぶせたという「播り鉢の松」がありましたが、枯死したことから伐採されました。山門は木造、石瓦葺き、切妻造りの平屋建て。108枚の石瓦で葺かれた屋根は煩惱をここで止めよと云われる仏教の教えであり、全国でも珍しい国の登録有形文化財に指定されました。

五百年に一人と言われるほどの僧・白隠禅師。「駿河には過ぎたるものが二つあり、富士のお山に原の白隠」とうたわれるほどの名僧です。原宿の長澤家に生まれ、15歳で出家し諸国を行脚。修行を重ねて原宿に戻ると、松蔭寺を拠点に当時、禅の神髄を見失っていた臨済宗を復興させ、中興の祖と呼ばれるようになりました。臨済宗の全十四派は、今でも全ての派が白隠禅師の禅と教えを伝えています。白隠禅師は禅画の作者としても世界的に著名で、個性的な達磨をモチーフにした禅画は特に広く知られています。

産湯の井戸



原・浮島の花

四季折々の花が咲き誇る当地では、豊かな水に育まれた貴重な植物群落と美しい風景、動物や昆虫の観察も楽しめます。



ナヨナヨスレナグサ



サワトラノオ



ミツガシワ



ミズバショウ



クサレダマ



ケイツネノボタン

原・浮島の鳥

浮島ヶ原一帯は「野鳥の楽園」と呼ばれ、バードウォッチングのポイントとしても人気で希少種の撮影や観察にも適します。



アオサギ



カルガモ・マガモ



カワウ



ケリ



キジ



コサギ

原・浮島に遺る名刹と名園

原・浮島
ぐるりMAP
き-G 15

とくげんじ 徳源寺

臨済宗妙心寺派。北条時宗の護国寺として開かれたお寺です。源頼朝が富士の巻狩の際に陣屋をおいた所と言われています。境内には「頼朝お手植えの松3代目」とされる松があり、庭には植松家の「帯笑園」の遺構の一部が移されています。白隠禅師は14歳の頃、ここで古典の素読、読み書きを習い、短期間で「句双紙」を暗記しました。この頃から出家への思いが高まりました。子供の無事成長を願い名を書いた幟を立てる子安地蔵大祭は5月。



原・浮島
ぐるりMAP
き-G 17

たいしょうえん 帯笑園

(現在整備中)

原の素封家・植松家が江戸時代後半から昭和初期まで代々伝えた庭園。シーボルトをして「今迄日本にて見たもののなかにて最も美しく」と言わしめた名園。珍しい植物の陳列と当時としては希少な温室を備えた植物園で、茶室からは庭と富士山の眺めを楽しめました。皇族や、伊藤博文など明治の元勳、大勢の大名や公家、文人墨客が訪れました。平成24年には国の登録文化財。月に一度見学ができます。

(お問合せ: 大沢さん090-6761-3267)



提供: 沼津市明治史料館

原・浮島
ぐるりMAP
き-H 20

ちょうこうじ 長興寺

臨済宗妙心寺派。室町時代、友獄和尚が行脚中、原の浜の海の響きに感応道交し一堂宇を建立したものと伝えられています。一時は火事や高潮で荒廃しますが、白隠禅師の道友・大義和尚によって再建され、全国各地から集まってくる修行者たちの宿坊として使われました。「駿河の金毘羅さん」の愛称で親しまれ、祭典には赤ちゃんの健康と無病を願う「赤ちゃん泣き相撲」が奉納されます。



原・浮島
ぐるりMAP
き-H 21

せいぼんじ 清梵寺

臨済宗妙心寺派。旅の途中で亡くなった得萬長者を弔うお寺で、尼となった妻が休んだ網元の網に長者の朝夕拝んだ地藏菩薩がかかったことから、力を合わせお堂を建て安置しました。原のお地藏さんとして広く知られ、本堂正面には白隠禅師筆の「願王閣」の扁額、本堂内には山岡鉄舟筆の「願王殿」の扁額があります。年一回7月の地藏尊縁日には白隠禅師の「地獄極楽変相図」が展開されます。



原・浮島
ぐるりMAP
く

原の海岸線

駿河湾の北岸はゆるやかな弧を描く広大な浜。千本浜から続く風光明媚な海岸線は10kmにも及び、松林越しに眺める富士山の美しさは格別。堤防ではこの景色を愛でながらのウォーキングやジョギング、サイクリングも人気。松林の中には遊歩道も整備されています。

また急深の地形から釣りのメッカとして、毎年6~7月ごろのシーズンには青物と呼ばれるサバやイナダが釣れ、浜に釣り人が並びます。



沼津港

原・浮島から車で約20分ほどで豊富な魚種と漁獲高を誇る沼津港へ。市場では毎朝セリが開かれ、新鮮な魚介や名物の深海魚を食べられる飲食店も軒を連ねます。土産処や深海水族館など、いつでも多くの観光客にあふれ、賑わいに満ちた場所です。



へだ 戸田地域との連携

平成17年(2005)戸田村と沼津市の合併により、駿河湾をはさんだ戸田地域と原・浮島との連携・交流もより深まりました。戸田の名産である、世界最大と言われるタカアシガニや深海魚、戸田塩などを活かし、沼津商工会では更なる情報提供や多彩に広がる人的ネットワークで、双方の個性や特徴を最大限に活かし、総合的な未来像を描いていきたいと考えています。

